

川に遡上したアユをとらえる（1～3月相模川）

アユは秋に川で生まれ、冬の海で動物プランクトンを食べて成長して、春になると川に遡ります。海で暮らしている間のアユの生態には不明な点が多く、川から海に下ったアユの生き残りの具合によって、翌春に川を遡上する量が大きく変わるものと推測されています。

そこで当場は、今年度から（国研）水産研究・教育機構との共同研究として、相模川と相模湾をモデルに海で暮らすアユの生態調査に取り組んでいます。当場は、1～3月に相模川の感潮域で海から川に入ってきた稚アユをとらえる調査を行いました。



図1：採集に用いたサーフネット



図2：灯火採集の様子

採集は大潮の夕暮れから夜間にかけて行われ、徒歩でサーフネットをひく方法と、岸壁で集魚灯をつけて手網ですくう方法で行いました。どちらの方法でも毎回数 100 個体のアユが採れ、特に2月には多くのアユが採れました。



図3：サーフネット採集の様子



図4：採集されたシラスアユ

また、並行して行われた寒川取水堰魚道における調査では、2月18日から継続してアユが採集されており、早くも2月中には全長約8cmに育ったものもみられました。今年の相模川への遡上は早く、好漁を予感させます。



図5：寒川取水堰と魚道



図6：2月18日に寒川取水堰で採れた8cmの稚アユ